

# まち＊ほん

## 田原市生涯読書振興計画

～誰もが自然に読書に親しむことができるまち～

令和8年度～令和12年度



令和8年3月

田原市図書館

## はじめに

**僕は読書が大好きだ。もっと多くの人に、本を読むようにアドバイスしたい。本の中には、まったく新しい世界が広がっているんだよ。旅行に行く余裕がなくても、本を読めば、心の中で旅することができるんだ。**

これは、アメリカ合衆国で「キング・オブ・ポップス」、「史上最高のエンターテイナー」と称され、天才の名をほしいままにした音楽アーティストであるマイケル・ジャクソンの言葉です。マイケル・ジャクソンは、その類まれなる歌唱表現やダンススキルによって、世界中の人々を熱狂させ、同時に夢や希望を与え続けました。そんなマイケル・ジャクソンには、読書家という一面もありました。彼は、「僕は読書が好きだ」と事あるごとに口にし、実際に、多くの本を読みました。それにより身につけた知識や知性は、専門家をも驚かすものだったと言われていました。読書することは、彼にとって、夢や希望を得る源だったといえるかもしれません。

さて、我が国では 1970 年代後半に、「読書離れ」や「活字離れ」などの言葉が表立って使われ出してから、40 年ほどが経過しました。実際、文化庁が行う「国語に関する世論調査」では、「スマートフォンの利用に時間が取られる」や「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」などの理由から、読書量が減ったと答える割合が年々増加していることから、「読書離れ」を裏付けるものとなっています。このような状況の中で、小中学校は、朝の読書や読み聞かせ、学校司書の配置による魅力的な図書館経営への取り組みなどを通して、子どもたちの読書環境の充実に力を入れました。そのかいあって、全国学校図書館協議会が行う「学校読書調査」では、1 か月に読んだ本の冊数が、10 年前に比べると 2 冊余り増えて改善傾向にあるという結果が示されました。これに対して、一向に改善の兆しが見えないのが大人です。文化庁の調査では、「1 か月に 1 冊も本を読まない」大人は 6 割を超えているとの報告があり、まさに危機的な状況だといえます。子どもが家で本を読んでいるのに、お父さんやお母さんがそこに入っていけない。これは、望ましい家庭の図としては、明らかにおかしなものです。子どもも大人も、みんなが読書を楽しめる、そんな環境づくりが今、求められます

このような環境づくりに貢献することを目的として、教育委員会は本計画を策定いたしました。読書には、「いろいろな知識が得られる」「読解力が育つ」「想像力が豊かになる」など、様々な効果があることが既に証明されていますが、何よりも大切なことは「読書することは楽しい」ことです。本計画の実施により、市民の皆様が「読書の楽しさ」を実感できるよう努めます。

最後になりますが、本市ではこれから令和 12 年度にかけて、本計画に示された内容の実施と検証を行います。基本理念にあるように、「誰もが自然に読書に親しめる」環境づくりに精一杯努めますので、市民の皆様には御理解と御協力をよろしくお願いします。

令和8年3月

田原市教育委員会 教育長 伊藤 正徳

# 目 次

第1章 計画の概要 .....	1
1 計画の目的 .....	1
2 計画の位置付け.....	1
3 国の法令との関係.....	1
4 計画の期間 .....	2
5 計画の策定体制 .....	2
第2章 前計画の取組みに対する評価・課題.....	2
第3章 基本理念・基本方針.....	4
1 基本理念.....	4
2 基本方針.....	5
I 生涯にわたる読書活動を通じた市民のウェルビーイングの向上.....	5
II 子どもの読書環境の整備、子どもの居場所づくり.....	6
III ふるさと教育を軸にした文化創造と地域活性化.....	8
IV 地域の情報と交流の拠点づくり.....	9
V 連携・協働による図書館活動の拡充 .....	10
第4章 施策体系(ロジックモデル)表 .....	11
第5章 計画の進行管理体制 .....	11

## 第1章 計画の概要

### 1 計画の目的

前計画「まち＊ほん生涯読書振興計画（令和3年度～令和7年度）」は、ふるさと教育を基軸としながら、子どもから高齢者まで、誰もが主体的に読書に親しむことのできる環境整備を推進してきました。一方で、人口減少や少子高齢化、デジタル技術の高度化などにより社会環境は大きく変化しています。生成 AI やデジタルコンテンツの拡大を背景に、読書や学びの在り方も多様化しています。予測が困難な時代においては、読書や対話を通じて主体的に学び、考え、行動する力を育み、持続可能な社会の造り手を育成することが一層重要となっています。また、全ての人々が精神的な豊かさや幸福、生きがいを実感できる「ウェルビーイング」の実現を目指すとともに、誰一人取り残されることのない社会的包摂の実現に向けた施策の充実を図る必要があります。

こうした状況を踏まえ、本計画（令和8年度～令和12年度）は、これまでの成果と課題を検証し、ふるさと教育との連動を一層強化しながら、生涯にわたり学び続ける力を育む読書環境のさらなる充実を目指して改定するものです。

### 2 計画の位置付け

本計画は、「田原市総合計画」や「教育大綱・教育振興基本計画」を上位計画とする個別計画として位置付け、上位計画の方向性等を踏まえ、生涯読書を推進するための考え方・体系を明らかにするものです。さらに関連する他の個別計画との連携を図ります。

### 3 国の法令との関係

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」及び「文字・活字文化振興法」に基づき策定するものであり、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項に定める「市町村子ども読書活動推進計画」を兼ねるものです。さらに、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」第8条第1項による「市町村読書バリアフリー推進計画」としても位置付けるものです。

## 4 計画の期間

本計画の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

## 5 計画の策定体制

本計画の策定に際しては、図書館法にもとづき田原市図書館条例により設置されている図書館協議会において検討が行われ、教育委員会へ報告を行い、それに対する各委員等からの意見を踏まえ策定を行いました。

## 第2章 前計画の取組みに対する評価・課題

前計画期間においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響や中央図書館の空調設備改修工事などにより、休館や利用制限を設けながらも、図書館サービスの継続と読書環境の整備、市民協働の取組を着実に進めてきました。令和3年度はコロナ禍による在宅時間の増加等も影響し、小中学生の不読率<sup>○</sup>が改善しましたが、その後は行動制限の緩和や調査方法の変更等の影響もあり、不読率は再び上昇傾向となりました。貸出密度<sup>●</sup>および実利用率<sup>◎</sup>は、全国平均を大きく上回る水準<sup>◇</sup>ではありますが、微減傾向にあります。課題であった学校図書館の電算化については、令和6年度に全小中学校への図書館システム導入と公共図書館とのネットワーク化を実現し、たはら学校電子図書館の運用を開始しました。高齢者施設を対象とした元気はいたつ便や音訳講座など、読書バリアフリーに関する取組は継続的に実施され、利用は増加傾向にあります。地方新聞のデジタル化などのデジタルアーカイブが進展し、市民参加での地域資料活用が広がりました。豊橋技術科学大学との連携による講座の開催や市民企画による事業の開催など、多様な主体との協働も定着しています。

今後の課題として、人口減少・少子高齢化の一層の進行を見据え、来館型サービスにとどまらないアウトリーチの強化や多世代交流の促進を図りながら、地域の実情に即した図書館サービスの充実を進めていく必要があります。

---

○ 不読率：1年間に1冊も本を読まなかったと回答した児童・生徒の割合

● 貸出密度：人口一人当たりの貸出点数

◎ 実利用率：年に1回以上貸出を利用した人数が、田原市の総人口に占める割合

◇ 文部科学省社会教育調査令和6年度中間報告の概要より [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa02/shakai/kekka/k\\_detail/1419659\\_00003.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/kekka/k_detail/1419659_00003.htm)

表 1 前計画における主な施策と評価指標

施策	評価指標	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値	評価
1-1-1 図書館資料の充実	貸出密度	10.99点	10.19点	9.78点	9.58点	維持	○
	実利用率	14.2%	14.0%	13.5%	13.7%	維持	○
1-1-3 レファレンスサービスの充実	レファレンス受付件数	198件	176件	192件	163件	150件	◎
1-2-2 高齢者サービスの充実と利用促進	元気はい	3366冊	3105冊	3483冊	4022冊	維持	○
	たつ便 <sup>°</sup> 団体貸出冊数・施設職員満足度	4.78	4.87	4.6	4.92	満足度向上	◎
2-1-1 学校図書館支援センター機能の充実	不読率	小学生 3.3% 中学生 5.3%	小学生 6.7% 中学生 6.0%	小学生 4.4% 中学生 7.1%	小学生 4.3% 中学生 6.2%	減少	小学生 ◎ 中学生 ○
	読書が好きと回答した児童・生徒の割合	小学生 87.2% 中学生 80.7%	小学生 84.6% 中学生 77.2%	小学生 86.1% 中学生 77.9%	小学生 81.8% 中学生 73.7%	増加	小学生 ◎ 中学生 ◎
2-1-2 移動図書館巡回、配送便による資料提供	移動図書館貸出数	102,391点	103,971点	97,595点	103,494点	維持	◎
2-3-2 保育園、こども園等における読書環境の向上	児童福祉施設・団体等に向いたおはなし会の実施	6回	3回	3回	1回	20回	×

° 高齢者福祉施設等へ職員とボランティアが出向き、回想法やレクリエーション等を行うサービス

施策	評価指標	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値	評価
3-1-2 デジタルアーカイブ等の充実 の充実	デジタルアーカイブ公開件数	10点 (新規3点)	10点 (新規0点)	11点 (新規1点)	18点 (新規6点)	20点	○
4-2-1 人がつながり、地域の課題解決の場となる 機会の提供	ワークショップ等イベント開催	実施	実施	実施	実施	継続・発展	◎
5-2-2 図書館の認知度 向上	メディア掲載数	35件	50件	48件	30件	25件	◎

#### <評価欄について>

- ・いずれも前計画の基準値(令和元年度)を基に、最新の実績値である令和6年度実績値と目標値を比較したものです。
- ・評価の表示(◎:達成度 100%以上 ○:達成度 80%以上~100%未満  
△:達成度 50%以上~80%未満 ×:達成度 50%未満)
- ・施設職員満足度はアンケートの選択肢の5段階評価を点数化した平均点  
(満足:5点 やや満足:4点 どちらでもない:3点 やや不満:2点 不満:1点)

## 第3章 基本理念・基本方針

### 1 基本理念

計画のめざす基本理念は「誰もが自然に読書に親しむことができるまち」です。

近年、日本人の読書離れが進んでいるといわれますが、人々が、自らの豊かな知性と感性を育て、人間や社会や自然を理解し、自立した暮らしを営むために、読書の重要性は、年代を問わずますます高まっているのではないのでしょうか。市民一人ひとりが読むことを通じ、さまざまな事実や意見を比べながら、じっくり考えて物事を判断する能力と習慣を養うことは、民主的な社会の前提でもあります。読書の習慣は自分で考え行動する習慣につながり、本をめぐる語らいは人と人の心をつなぎます。読書は人の「自立」と「つながり」の両方に役立ちます。それゆえに、読書は生涯にわたる発達に欠かせない活動でもあります。子どもの読書は大人の読書の基礎であると同時に、読書する大人がまちじゅうにいることこそが子どもの読書にとっ

で最良の環境です。

また、本計画の愛称である「まち＊ほん」は、「まち」と「ほん」を掛け合わせていることを表し、“マチホン”と読みます。本がまち全体に行き渡り、読書とまちづくりが互いに影響し合うことにより、両方が飛躍的に発展してほしいという願いをこの愛称にこめています。

## 2 基本方針

### I 生涯にわたる読書活動を通じた市民のウェルビーイングの向上

- 図書館サービスを通じて、市民一人ひとりが生きがいや安心感を得るとともに、リカレント教育を含めた生涯にわたる学びを支えながら主体的に学び、社会とつながることができる環境を整え、市民のウェルビーイングの向上を図ります。
- 乳幼児から高齢者まで、生涯にわたり読書に親しむことができる環境を整備します。学びや楽しみのためだけでなく、暮らしや仕事、地域課題の解決に役立つ資料や情報を提供します。
- 音声資料やアクセシブルな電子書籍の充実を図り、来館が困難な方も含め、障害の有無にかかわらず、誰もが読書にアクセスできる環境の整備を推進します。
- いつ来ても新しい情報が得られ、知的好奇心を喚起する魅力的な棚づくりを行うとともに、テーマ展示などの読書案内を充実させます。また、気軽にレファレンスサービス<sup>f</sup>を利用でき、生活や仕事、まちづくりに役立つ情報を効率的に入手できるよう、資料の充実と、職員の専門的知識向上を図ります。



図書館内での様々なテーマ展示

<sup>f</sup> 調査相談業務。調べもののお手伝いを行い、文献紹介等を行います

<主な施策と評価指標>

施策	評価指標	令和6年度 実績	目標値
1-1-1 図書館資料の充実	貸出密度	9.58点	維持
	実利用率	13.7%	維持
1-1-3 レファレンスサービスの充実	レファレンス件数	163件	150件以上
1-3-3 知的好奇心を喚起させる展示や読書案内	館内でのテーマ展示件数	513件	維持
1-2-2 高齢者サービスの充実と利用促進	元気はいたつ便団体貸出点数	4022冊	維持

## Ⅱ 子どもの読書環境の整備、子どもの居場所づくり

- 急激に変化する時代において、必要とされる資質・能力を育む上で、読解力や想像力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠であり、全ての子どもたちが読書活動の恩恵を受けられるよう、読書環境の整備を進めます。
- 子どもの読書推進には学校等の関連機関との連携が不可欠です。移動図書館車による全小学校への巡回事業をはじめ、団体貸出や配送サービスを通じて学校への資料提供を継続するとともに、学校司書や教員への支援を充実させます。



移動図書館いずみ号巡回の様子

- 全小中学校に導入した学校図書館システムの活用を進め、公共図書館とのネットワークを活かした資料の相互利用を推進します。また、学校電子図書館「なのはなライブラリー」の利活用を進め、読書機会の拡充を図るとともに、ICTを活用した読書環境の充実を推進します。
- ブックスタートやおはなし会などの児童サービスを充実させ、関係機関と連携しながら、乳幼児期からの読書習慣の形成を支援します。
- こども基本法の趣旨を踏まえ、子どもの意見を図書館サービスに反映するとともに、子どもが主体的に読書活動に関わる機会を創出します。
- 部活動の地域移行の進展に伴い、放課後や土日などの時間を子どもたちが有意義に過ごせるよう、図書館において文化的体験や多世代との交流の機会を提供し、子どもの居場所づくりに取り組みます。

<主な施策と評価指標>

施策	評価指標	令和6年度 実績	目標値
2-1-1 学校へのレファレンス、団体貸出、司書やボランティアによるブックトーク <sup>9</sup> 、読み聞かせ等の実施	不読率	小学生 4.3% 中学生 6.2%	減少
	読書が好きと回答した児童・生徒の割合	小学生 81.8% 中学生 73.7%	増加
2-1-2 移動図書館巡回、配送便による資料提供	移動図書館貸出数	103,494 点	維持
2-2-1 おはなし会、工作教室等イベントの実施	おはなし会回数	128 回 (1,028 人)	維持
	工作教室回数	25 回 (内セルフ工作 18 回)	維持

<sup>9</sup> テーマにそって何冊かの本を順序だてて紹介するサービス

### Ⅲ ふるさと教育を軸にした文化創造と地域活性化

「ふるさと」とは、生まれ育った土地に限らず、現在暮らす地域に愛着や誇りを持ち、心のよりどころや世界を知るための基準となるものです。「ふるさと教育」とは、地域の歴史や文化、産業、自然環境などの教育資源や関連資料を活用して地域への理解を深め、その学びを支える取組です。図書館では、地域資料の充実を図り、「田原のことは図書館に来れば分かる」環境づくりを進めます。また、地域資料のデジタルアーカイブ化やオープンデータ化、デジタル行政資料の収集・保存を推進し、誰もが活用しやすい基盤を整備します。さらに、市民がふるさとの歴史や文化、産業、自然環境について学び、発信する機会を創出し、地域への愛着を育むとともに、持続可能な社会の創り手の育成につなげます。



図書館ホームページで公開されているデジタルアーカイブの一例「前日物語」

#### <主な施策と評価指標>

施策	評価指標	令和6年度 実績	目標値
3-1-2 デジタルアーカイブ、オープンデータ公開、新聞記事見出しデータベースの充実	デジタルアーカイブ公開件数	18点 (新規6点)	毎年新規2点 追加

#### IV 地域の情報と交流の拠点づくり

- 図書館を地域における情報と交流の拠点として位置付け、教育文化施設をはじめ、関係機関や地域団体、市民との連携・協働により、地域の学びと交流を支える図書館サービスの充実を図ります。また、赤羽根図書館と赤羽根市民センターの複合施設建設に向けた検討を進めます。
- 人がつながり対話を通じて地域課題を共有・解決する場を創出するとともに、対話を促進する人材の育成を図ります。また、多文化や多様性、少数派（マイノリティ）への理解を深める資料の充実や講座・ワークショップの開催を通じて、共生社会の実現を推進します。あわせて、「議員とたはらトーク」等の取組を通じて主権者教育を推進します。
- ICT 環境の整備と講座の実施により、市民のデジタル活用能力の向上を図るとともに、情報格差（デジタルデバインド）の解消に努めます。豊橋技術科学大学等と連携し、生成 AI を含む最新技術に触れる機会を提供し、誰もがその恩恵を享受しながら、適切に活用できる力の育成を図ります。



中央図書館内での議員とたはらトーク開催の様子

##### <主な施策と評価指標>

施策	評価指標	令和 6 年度 実績	目標値
4-2-1 人がつながり、地域の課題解決の場となる機会の提供	ワークショップ等イベント開催	実施	継続・発展

## V 連携・協働による図書館活動の拡充

- 田原市図書館はその成り立ちの時から市民とともに築かれ、市民との協働により運営してきました。おはなし会や元気はいたつ便、音訳<sup>h</sup>、ブックスタート、リサイクルブックオフィス<sup>i</sup>など、多くの事業は市民のサポートによって成り立っています。今後もサービスの維持・向上のため、市民・団体・企業等との連携を一層深化させるとともに、定年世代による図書の修理などの社会貢献活動を広げ、持続可能な協働体制を構築します。
- 雑誌スポンサー制度をはじめとするファンドレイジングを推進し、図書館活動を支える支援者の拡大を図ります。イベントの開催や SNS 等を活用した情報発信を強化し、生涯にわたる読書活動の普及に努めます。
- 市民企画の手話カフェ等の開催をはじめ、医療・福祉関係者との連携を進め、図書館で安心して集い、学び、支え合うことのできる地域のケアの場としての機能を高めていきます。



リサイクルブックオフィス

### <主な施策と評価指標>

施策	評価指標	令和6年度 実績	目標値
5-2-2 図書館の認知度向上	メディア掲載件数	30件	25件以上

<sup>h</sup> 視覚に障害のある人が本などの内容を理解できるように、文字や図表を音声化すること

<sup>i</sup> ボランティアが図書館の除籍本や寄贈本を販売し、売り上げから大活字本等を図書館へ寄贈する事業

## 第4章 施策体系(ロジックモデル)表

別紙

## 第5章 計画の進行管理体制

本計画は、今後5年間の田原市図書館の取組の方向性とアクションプランを示すものです。各年度の取組内容や具体的な評価指標、数値目標に関しては、新たな課題や社会状況の変化を踏まえて、1年毎の事業計画を作成し具体化を図るとともに、毎年その達成状況に対して評価を行い、施策のPDCAサイクルを実施します。

また、事業計画の内容やその評価については、図書館協議会において提言をいただくとともに、利用者アンケートや児童・生徒を対象とした読書アンケートをはじめとした様々な評価手法を活用し、事業計画へ反映していきます。

# 施策体系(ロジックモデル)

基本理念(最終アウトカム・上位目的)		誰もが自然に読書に親しむことができるまち				
目的実現のための主要な手段(基本方針・5つの柱)→下位手段		施策	連携・協働機関等	指標		
<b>I 生涯にわたる読書活動を通じた市民のウェルビーイングの向上</b>						
I-1	課題解決支援サービスの推進					
	1-1-1	図書館資料の充実	資料の収集・整理・貸出	文化財課、書店、リサイクルブックオフィス、スポンサー企業	貸出点数、貸出密度、実利用率、リクエスト点数、雑誌スポンサー数	
	1-1-2	電子資料・データベースの提供	電子資料、データベースの提供	国立国会図書館	データベースの利用促進 学校電子図書館の活用促進	
	1-1-3	行政・議会支援サービスを始めたレファレンスサービスの充実	行政・議会支援サービスの実施 レファレンスサービスの実施、市職員・議員対象の調べ方講座、図書館職員へのレファレンス講習会	議会・市各課	行政・議会支援サービス実績件数 レファレンス件数、研修回数	
	I-2	障害者・高齢者の読書環境の整備				
		1-2-1	障害者サービス、読書バリアフリーの推進	にじむるサービスの実施、サビエ図書館、国会図書館データベースサービスの提供、音訳ボランティア養成講座	地域福祉課、社会福祉協議会、国立国会図書館、ボランティア	郵送貸出回数、音訳図書作成数、サビエ図書館等利用数
	1-2-2	高齢者サービスの充実と利用促進	元氣はいたつ便、いきいき元気タイム、回想法の実施、ボランティア養成講座、大活字本等の資料の充実	高齢福祉課、高齢者福祉施設、ボランティア	実施回数、参加者数、貸出回数、満足度	
	I-3	生涯学び続ける社会の実現のための各世代のニーズに合わせた読書環境の充実				
		1-3-1	子育て支援等情報の提供	保育園などの子どもの読書に関する状況提供、図書館での子育て支援情報提供	子育て支援課、親子交流館、保育園、児童センター	満足度
		1-3-2	中高生向けサービスの充実と利用促進	YAサービス、職場体験受入、高校連携事業、ジュニア司書講座、冊子発行、SNSでの発信	学校教育課、県立高校	貸出冊数、団体貸出、職場体験受入人数、連携事業数、ジュニア司書講座修了者数
1-3-3		学び直しの機会提供、知的好奇心を喚起させる展示や読書案内	生涯学習関連情報の提供、テーマ展示、ブックリストの作成	生涯学習課、学術機関	展示回数、ブックリスト作成数	
<b>II 子どもの読書環境の整備、子どもの居場所づくり</b>						
2-1	学校図書館支援機能の充実					
	2-1-1	学校図書館支援センター機能の充実	学校へのレファレンス、団体貸出、司書やボランティアによるブックトーク、読み聞かせ等の実施	学校教育課	レファレンス件数、団体貸出件数、不読率	
	2-1-2	移動図書館巡回、配達便による資料提供	移動図書館巡回、配達便による貸出	学校教育課	移動図書館巡回回数、貸出冊数、満足度	
	2-1-3	デジタル社会に対応した読書環境の整備	学校図書館システム、学校電子図書館の利活用推進	学校教育課	学校電子図書館の閲覧回数	
	2-1-4	学校司書、図書館担当教員の知識・技能向上支援、授業支援	田原市図書館と学校図書館との連携を考える会、学校図書館運営研修会の開催	学校教育課	司書連絡会回数、研修会回数、レファレンス件数	
2-2	児童サービスの充実、子どもの居場所づくり					
	2-2-1	おはなし会、工作教室等イベントの実施	おはなし会、工作教室等の実施、Webでの読み聞かせ動画等公開	ボランティア	おはなし会等回数、参加者数、満足度	
	2-2-2	展示、ブックリスト等の作成	展示、ブックリスト等の作成、ホームページでの発信		展示回数、ブックリスト作成数	
	2-2-3	親子交流館等との連携	出前図書館、赤ちゃんサロンでのおはなし会実施	親子交流館	出前図書館回数、貸出数	
	2-2-4	子どもの居場所づくり	司書体験、ラーケーション等の受け入れ、多世代での交流	学校教育課、生涯学習課	司書体験講座開催数	
2-3	乳幼児向けサービスの充実					
	2-3-1	ブックスタートの実施	ブックスタートの実施	子育て支援課、ボランティア	ブックスタート回数、参加者数	
	2-3-2	保育園、こども園等における読書環境の向上	団体貸出、出張おはなし会、図書館訪問開催	子育て支援課、保育園、こども園	団体貸出数、出張おはなし会回数	
2-3-3	乳幼児向けおはなし会等イベントの実施	乳幼児向けおはなし会開催	子育て支援課、ボランティア	おはなし会等回数、参加者数		
<b>III ふるさと教育を軸にした文化創造と地域活性化</b>						
3-1	ふるさと学習に役立つ資料の充実					
	3-1-1	地域資料の充実、調べ方案内やテーマ別リストの公開	地域資料コーナーの充実、新聞記事見出しデータベースの充実	文化財課、学校教育課、ふるさと教育センター	各件数、アクセス数	
	3-1-2	デジタルアーカイブやオープンデータの推進	デジタルアーカイブ、オープンデータ公開、新聞記事見出しデータベースの充実	文化財課、ボランティア	資料公開件数	
	3-1-3	田原市の全ての情報が手に入る環境の整備	地域資料コーナー、行政・議会支援サービスの充実、デジタル行政資料の収集と公開	市各課	行政・議会支援サービス受付件数、連携デジタル行政資料公開件数	
	3-2	ふるさとについて学び発信する機会の提供				
		3-2-1	ふしぎ文字半島プロジェクト、ウィキペディアタウン等の実施	ふしぎ文字半島プロジェクト、ウィキペディアタウン等の実施	文化財課、ボランティア	実施回数、参加者数、満足度
		3-2-2	ふるさとについて学ぶ機会の提供	講座等の実施	文化財課、ボランティア	実施回数、参加者数、満足度
	3-3	ふるさと教育推進ネットワークの構築				
		3-3-1	ふるさと教育に関わる団体・施設等との連携	連携事業の実施	市各課、市民館、ボランティア等	連携回数
	<b>IV 地域の情報と交流の拠点づくり</b>					
4-1	市内全域への図書館サービス					
	4-1-1	地域の情報と交流の拠点としての中央・赤羽根・渥美図書館の充実	地域の歴史や魅力の発信	生涯学習課、地域課	来館者数、来館者満足度、市民意識調査	
	4-1-2	赤羽根図書館と赤羽根市民センターの複合施設の建設	新施設における赤羽根図書館のサービス検討	市各課	赤羽根図書館複合化	
	4-1-3	アウトリーチサービス、市民館等の施設との連携による読書振興	アウトリーチサービス、市民館等の施設との連携による読書振興	生涯学習課、市民館	アウトリーチ件数、団体貸出	
	4-2	人と情報の交流の場としての機能向上				
		4-2-1	人がつながり、地域の課題解決の場となる機会の提供、主催者教育	ワークショップ等イベント開催	市各課、市民館、ボランティア等	イベント等実施回数
		4-2-2	サードプレイスやコワーキングスペース、自習の場として快適な環境の整備	館内環境の整備		来館者満足度、来館目的調査
	4-2-3	多文化・多様性の理解、共生社会の促進	外国語資料の充実、多文化・多様性の理解促進に関する資料の充実、講座開催、対話を促進する人材育成	国際交流協会	蔵書冊数、講座回数、参加者数	
	4-3	生成AIなどICTを使いこなす市民を増やす				
		4-3-1	生成AI、プログラミングやICTを学ぶ機会の提供	たはLabプログラミング講座、情報リテラシー講座等の開催、スマホお悩み相談会への支援	学校教育課、曹橋技術科学大学、Code for MIKAWA、ボランティア	講座回数、参加者数、満足度
4-3-2		インターネットやデータベース等による情報収集環境の整備	Wi-Fi整備、タブレット貸出、データベース提供		タブレット貸出件数、データベース利用件数	
4-3-3	曹橋技術科学大学等との連携による事業実施	技科大連携事業	曹橋技術科学大学	イベント等実施回数、満足度		
<b>V 連携・協働による図書館活動の拡充</b>						
5-1	協働による図書館運営の推進					
	5-1-1	ボランティアの育成と連携の強化	ボランティア養成講座の実施、シニア世代の社会貢献活動支援	ボランティア	ボランティア登録者数、稼働率、ボランティア活動満足度	
	5-1-2	団体・機関との連携によるサービスの充実	団体、企業等との連携	企業、大学、ボランティア	連携イベント等回数	
	5-1-3	リサイクルブックオフィスとの協働による資料の活用	リサイクルブックオフィスの運営支援	ボランティア	リサイクルブックオフィス売り上げ、寄贈図書金額	
	5-1-4	協働を推進する人材の育成	職員研修、養成講座等の実施	NPO、大学	研修会回数	
5-2	資料やサービス充実のための支援者(ファン)の獲得					
	5-2-1	雑誌スポンサー制度を始めとするファンレイジングへの取り組み	雑誌スポンサー制度	スポンサー企業、商工会	雑誌スポンサー数、寄附件数	
	5-2-2	図書館の認知度向上	メディア掲載、講師派遣、視察受け入れ等	新聞、出版社	メディア掲載数、執筆掲載回数、視察受け入れ件数、市民意識調査	
5-3	生涯にわたる読書活動のPR、文字・活字文化の振興					
	5-3-1	図書館、書店、新聞社、出版関係団体と連携した文字・活字文化の推進	展示、イベント等開催	書店、新聞社、出版社	展示回数、イベント回数、参加者数	
	5-3-2	ホームページやSNSを活用したPRの充実	ホームページ充実、SNS発信		ホームページアクセス件数、SNSフォロワー数	

まち＊ほん

田原市生涯読書振興計画

令和8年度～令和12年度

編集・発行 田原市図書館

〒441-3421 愛知県田原市田原町汐見5番地

田原市中央図書館

TEL:0531-23-4946/FAX:0531-23-4646

URL: <https://library.city.tahara.aichi.jp>

発行年月 令和8年3月